

24年度第6回 運営推進会議議事録

平成25年3月26日

記録 石井

参加者

福祉課	福祉施設係課長	阿部様
	政策推進課政策調整係	横山様
緑町	町内会長	首藤様
	町内副会長	松木様
	お買い物バス利用者様	佐藤様
鳴川	町内副会長	小林様
	婦人部長	高田様
ケアプランセンターしゃきょう		氷見様
緑町ご家族様代表		中島様
鳴川ご家族様代表		大堂様
大沼ご家族様代表		藤野様
スタッフ		中村・松村・石井・吉田・山村・田名部

中村 : 今年度最後の運営推進会議という事で、今回は鳴川、大沼、緑町の三事業所合同で開催致します。まずは、おかいものバスについて緑町の方から実際に運行しての結果報告をお知らせしたいと思います。

吉田 : お手元の資料を見ていただきながら報告致します。実施したのは、12月、1月、2月で第2、第4の月曜日・火曜日で行いました。月曜日は魚長、火曜日はラルズで、共にシルバーディでお年寄りの方が安くお買い物出来るという事で、設定しました。12月は1日平均3.5人で1人平均は2回。1月は1日平均4.25人で1人平均は2.125回。2月は1日平均3.5人で1人平均は1.75人で延べ利用者数は45人という結果になりました。もう一枚の資料は昨年運行したデータで今年との比較対象として用意しました。昨年は延べ利用者数は37名で若干ではありますが増えてきているというデータ結果が出ています。

中村 : バスを使っていた方から実際に利用して感じた事などお話ししていただきたいと思います。

佐藤様 : すごく助かっています。行く時は何ヶ所かに集まって、そこまで迎えに来てくれていて、帰りは玄関まで荷物を持って送って下さいました。買い物の時も店の玄

関に担当の方が待っていて、重い物を持ってくれるので感謝の言葉しかありません。

首藤様：高齢化率も上がっているのです、そのような方たちを意識しながらやってもらい、試行という形ではあっても実際に助かっています。緑町はお店一つしかなく、日曜日と月曜日が休みで、一番買い物をしやすい曜日が休みなので上まで行くのは、坂道も多いし荷物もあるから大変です。出来れば続けてもらいたいし、少しずつ利用も増えていて、もしかしたらまだ利用したい人もいるかもしれない。ただ宣伝が足りなかったかもしれない。ボランティアというので心苦しい面もあるが、継続してもらいたいと思っています。

松木様：ホントにありがたいです。感謝感激雨あられですよ。

中村：社協さんの方で今話を聞いてどう思いますか？

氷見様：私の担当している方は利用していないが、知り合いの方が利用しているという話は聞きます。やはり助かっていると話されていました。

中村：社協さんでも受診などやっていますよね。それに対して何か支障が出るとか、これはおかしいなという事はありませんか。

氷見様：特にはないです。

松木様：一つ質問なのですが、このバスは1回の利用で何人乗れるのですか。

松村：運転手や助手、車椅子など除いて、定員は7名です。

中村：今はキャラバン一台しか使っていませんが、ニーズが増えたらどうするかも考えていかなければならないと思います。今回は緑町の運行状況の報告という形で終わらせて頂きますが、次ぎに鳴川町内会のお買い物バスのアンケート結果について小林副会長さんの方からお願いします。

小林様：最初は2/24にやる予定だったのが、日程がずれてしまい3/12の火曜日に行いました。該当者は75歳以上で1人住まいの方。この調査は聞き取りで行い、重点を置いたのはバスを利用するかという事。対象者は25名と書いていますが実際は30名を対象に実施しました。9名が留守。4名が回答なし。残りの17名の方が回答

してくれました。6名が利用したいという意見で、今はいいがいずれ利用したいという方が12名おりました。

中村 : 人数が少ない割に利用したいというニーズは高いですね。

小林様 : 私の気持ちとしては絶対にやっていきたいと思っていますし、徐々にニーズが高まって拡大してやっていければ心強いです。

中村 : 鳴川、緑町町内会でこういう報告が出ていますが、役場としての意見を伺いたいと思います。

横山様 : 七飯町全体としても、高齢化は深刻な問題で、それに対して政策推進課としても検討している段階です。実際に動くとなると様々な弊害もあるので、実現に向けて考えている最中だが、慎重に検討しているという部分でご理解いただきたいと思います。

首藤様 : お買い物バスは全部ハッピーさんで行っているが、なにか補助とかはないのですか。

横山様 : 出来れば交通弱者と呼ばれる方々の助けになればとは考えているも、なかなか前に進んでいけないというのが現状です。

佐藤様 : せめてガソリン代だけでも役場の方で持ってくれればと思いますし、すごくお世話になっているので心苦しい面もあります。

中村 : 介護予防の分類で、社協さんでは何かやっていなかったですか。

氷見様 : やっています。大中山と本町と大沼の3地区でやっています。

大堂様 : ボランティアで行っていくには、ちょっと難しいと思います。話が大きくなってしまうので。

中村 : 3年、4年越しでやっているのですが、今の所は事故もなく運行していますが、事故やケガがあってもボランティアという部分で承諾して頂いているのも確かです。

阿部様 : 事故があった時のフォローとか色々な要素が発生してきますよね。

小林様：私の考えですが、やはり介護は介護。割り切りでやらないと中途半端になると思います。介護が必要な方じゃなくても買い物難民はいると思います。

中村：実際は利用している方から「ありがとう」という言葉を聞くだけでもスタッフは頑張れるし、福祉の仕事をしていて利用者様から「ありがとうね」と言われると職員も励みになっています。お金だけじゃなく感謝の気持ちだけで十分。運転に関しても送迎の運転手もいるし、保険にも入っているので万が一の事故が起きても即対応できます。利用してもらっている方々も承諾しているし、グループホームは受診もあり、どこでもリスクはついている。お買い物バスも一緒です。

中島様：私も車を運転しておりますが、運転できなくなったり、いつどうなるかわからないし、こういうのがあれば自分に置き換えた時に大変ありがたいです。運営する側は、いつ事故が起きるかわからないし心配がつきまとうと思えますが、最終的には公共などの手助けも必要になってくると思えます。

中村：すべての送迎車には保険が入っています。保険に入っているから良いというわけでもないですが、やった以上は形にするまではやめたくないのも、行政の方もただやって下さいではなく、実際にバスを運行しての結果を踏まえて動いてほしいと思えます。

松木様：ここだけでやってもインパクトがないから役場も動けないのではないのでしょうか。他の施設にも声をかけて一緒にやっていき、経費や人手がどれくらいかかるのかなどのデータを取ってやる方法もあるんじゃないのでしょうか。緑町の運行状況の結果について多いと思うか、少ないと思うか、そこらへんの事もわかってくるのでは。

中村：やった効果としては認めていない。ただ足跡として継続しているという風に思っています。難しい話になるが、厚生労働省がオレンジプランというものを出し、病院を拠点として色々な情報を共有して地域の中でお互いが顔の見える関係を作って行きましょうという取り組みで4/1から施行されます。行政がうまく民間を活用した事業を行うべきと国が言っていて、それは国がお金がないからで、行政側から民間に声をかけた方がいいと思えます。

首藤様：町の方から、ガソリン代くらいでも補助はないのでしょうか。乗ってる人も無料だと申しわけないと思うだろうし、町からいくらかでもあれば充実していくと思えます。

中村 : ガソリン代とか出れば、やる所も増えるかもしれませんね。

松木様 : タダというのはダメだと思うんですよ。

中村 : ボランティアという形でやっているの、自己責任という意識が強い。お金をもらうと営業や業務になってしまいます。

小林様 : 実績を出せば行政も動いてくれるのではないのでしょうか。

中村 : 3年やっても動かないし、道新や介護新聞にも出ても動かない。北海道内でもマネして行ったところもあり、そこは行政から始まっていました。

阿部様 : 行政の方でもポイント制など考えています。

中村 : ボランティアをしたらポイントが貯まるようにしたらどうでしょう。

松木様 : 有料ボランティアっていうのもあるし、なんでもタダはダメ。

中村 : ポイント制で予算は取っていないのですか。

阿部様 : どういう風にやっていくという具体的などは決まっています。

松木様 : 横浜の方でやっているところもあり、行政の方で調べるとかするのはどうでしょうか。

中村 : 1月に沖縄の方に行ったが、あそこも過疎地なのでやっていました。

松木様 : どこもやっているのは厳戒集落のようなところから始まっています。例えば30 km離れた山奥に所帯があるとか、50 km離れたところにあるとか。そういう所に徐々に役場がバスを出している。

中村 : 七飯町や小樽など坂の多いところなどは厳戒集落の対象外になります。やめようか、やめようかと考えても、冬になれば、また取り組んでいく方向に考えてしまいます。始めたきっかけが1人でも2人でも使いたいという声があればと思って始めたが、今後はどこまで続くかわからない。行政とも話し合いを持ちながら、冬が来る前にもう一度各施設に「こういう事をやっている」という足か

けのテーブルを作ってほしい。施設職員だけじゃダメなので、町内会や実際に利用している方の声を聞ける機会を設けてもらいたいと思います。

阿部様：広い意味で「町づくりの政策」っていう形でということでしょうか。

中村：そういう事をして無駄じゃないと思います。お買い物バスだけでなく、防災についてはどこの市町村も取り組んでいるので。それで来年度の運営推進会議のテーマを一年間「防災について」でやりたいなあと考えています。

首藤様：緑町の5区あるうちの第4区の大久保さんっていう方が防災についての研修を行いました。緑町全体で出来れば良かったがそこまで手が回らなかったのが、今後緑町全体で考えなきゃいけないと思います。

中村：震災が起きて2年が経ち、耐震強度の問題もあり、例えば本町ならどこに逃げるっていう話になりますよね。

小林様：かつては鳴川振興会館が避難場所だったが、今は外されました。

首藤様：緑町も一緒です。

小林様：今は文化センターや小学校になっているが、震災が起きたら国道自体が封鎖される。専用車両などがたくさん入ってきます。

中村：鳴川、大沼、そしてここの共生は鉄骨で出来ている。緑町は木造。来年度のテーマとして防災について6回の運営推進会議で議論していきたいと思います。出来れば防災訓練なども、町内会・消防も含めて訓練していければと思っています。最終的に少人数でも構わないのでマップ作成を町内会と一緒に作っていきたい。小さい事でも周りが興味を示せば徐々に拡大していくと思います。今年度は偶数月で運営推進会議を行い、町内会・役場の都合もあるので早めに連絡を出していきたいと思っています。一年間のまとめとして、ホームとしては大きな変動もなく救急搬送なども少なかったです。おかげ様で無事に一年間事業を進めていく事が出来たので、今後とも宜しくお願いします。

その他、意見・質問等無いため終了